

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

新型コロナウイルス感染症に対する院内および  
施設内感染対策の確立に向けた研究

研究分担者 森井 大一 大阪大学医学部附属病院感染制御部 医員

研究要旨

新型コロナウイルス感染症の流行以前と流行後の、大学病院病由来訪者の手指衛生遵守率を測定した。2020年1月及び2月に新型コロナウイルス感染症関連報道が増えるに従い、手指衛生の遵守率が上昇した。2020年8月頃に70%程度に達し、その後同水準で推移した。新規感染者の増減と明らかな関連は見られなかった。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症が病由来訪者の手指衛生行動にどのような影響を与えたかを明らかにする。

B. 研究方法

場所：大阪大学医学部附属病院の正面玄関から入ったエントランスホール

期間：2019年12月～2022年3月

時間：平日午前中の中の1時間

方法：週に1回の頻度で、病由来訪者を分母とし、そのうちエントランスホールの正面の柱付近に設置された手指衛生剤のディスペンサー等によるアルコール手指消毒を使用した者の数を分子として測定。また、関西地域で放映されたNHKの新型コロナウイルス感染症関連の報道時間を測定し、前日夜の秒数と当日朝の秒数の和をその日の報道時間（秒数）とした。

統計解析：遵守率の比較は $\chi^2$ 検定により検定を行った。報道時間と遵守率の関係については、ロジスティック回帰分析を行った。P値0.05未満を統計的有意とした。

その他：玄関の自動ドアからディスペンサーまでは約5メートルでその間、動物の足跡シールによる誘導がある（Figure 1）。

た。



Figure 1 正面玄関からエントランスホールのディスペンサーまで（円形の「だれのあしあと？」と印刷されたシールは2020年1月に撤去）

（倫理面への配慮）

録画等は行わず、直接観察のみで調査した。

C. 研究結果

2019年12月の手指衛生遵守率は、5.29%であったが、原因不明の新型コロナウイルス感染症関連の報道増え始めた2020年1月後半ごろより増加し始めた。2020年8月以降は70%前後で推移するに至った（Figure 2）。

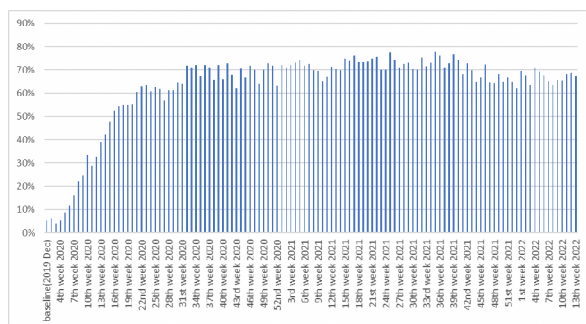


Figure 2 遵守率（週単位）の推移

また、新型コロナウイルス感染症の流行の初年である2020年を1年通してみても、全国及び観測地である大阪の新規陽性者と手指衛生遵守率の相関は見られなかった (Figure 3)。

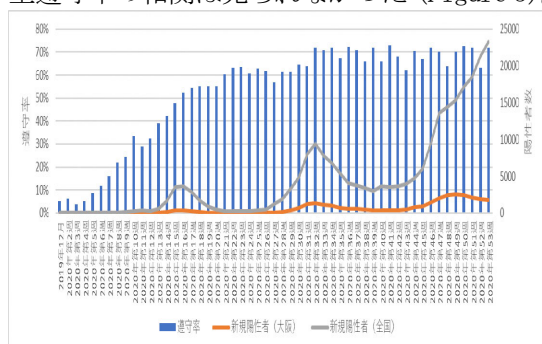


Figure 3 2020年の遵守率（週単位）と新規陽性者数

また、流行最初期の2020年1月及び2月を見ると、最初に手指衛生遵守率の上昇が確認されたのは、1月28日（711分の54、7.6%：12月10日から1月23日までの7183分の364、5.0%より上昇。P値<0.01。）であったが、それまでに国内感染例の報告はなかった（国内感染例が報告・報道されたのは同日夕のため）。2020年1月及び2月の大阪での新規陽性者数は2例であった (Figure 4)。

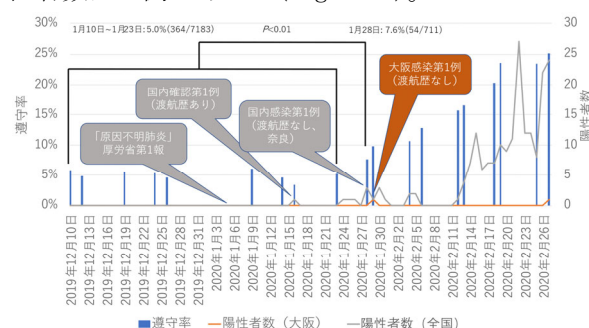


Figure 4 2020年1月・2月の遵守率（日単位）と新規陽性者数

また、2020年1月及び2月の、関西地域で放映されたNHKの朝のニュース番組（『おはよう日本』）の7時台と夜のニュース番組（『ニュース7』）内におけるコロナ関連報道に費やされた秒数と手指衛生の遵守率の関係においては有意な相関がみられた (Figure 5) (60秒毎のOR=1.054、95%CI:1.047, 1.062、P値<0.01)。

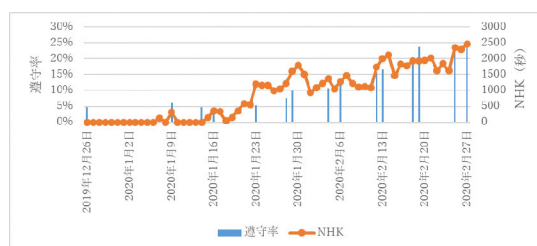


Figure 5 遵守率と関連報道

## F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

